

成長・貢献・感謝

数検

15日(土)午前中に数学検定が実施されました。羽中生数名が3級から5級を受検しました。



英検に比べて参加人数は少ないものの、学校の休みの日に意欲的に検定に挑戦してくれた生徒の皆さんの向学心に敬意を表したい。

数検は、「実用数学技能検定」という正式名称で、数学・算数の実用的な技能を測る検定です。内容は、計算・作図・表現・測定・整理・統計・証明など、実用的な数学能力が問われる全国規模の検定試験で、公益財団法人日本数学検定協会が運営、実施しています。

数学領域は1級から5級まであり、6級から11級までが算数領域です。

最もレベルが高い1級は、大学レベルで、準1級が高校3年生(数Ⅲ)、2級が高校2年生(数ⅡB)、準2級が高校1年生(数Ⅰ)、3級が中学3年生、4級が中学2年生、5級で中1年の教科書程度、となります。

解答は全て記述式で、マークシートではありません。

ちなみに合格率は、5級で73%、4級が72%、3級が67%、準2級が35%、

特に1級は、合格率7%程度で難易度が最も高い級ですが、驚くことに最年少で1級に合格した中学2年生もいます。

各級に合格すると、立派な合格証と合格証明書がもらえます。数学力を試してみよう。



羽地中学校
学校だより 50 号
R1. 6. 18

ケン・ロビンソン 学校教育は創造性を殺してしまっている



絵の教室に通う6歳の少女が、教室の後ろの方で絵を描いてました。少女はそれまで何も集中したことがなかった。

でも、その教室では違ったんです。先生は興味を惹かれて少女に「何を描いているの?」と聞きました。彼女は「神様の絵を描いているの」と言ったんです。

先生は、「神様がどんな姿をしているか誰も知らないのよ」と言うと少女は「もうすぐ分かるわ」と答えたんです。(笑)

私の息子がイギリスで4歳だったころ、実を言うと、あのころはどこへ行っても4歳だったんです。(笑)

息子はキリスト誕生の劇をやっていたんです。どんなストーリーか覚えていますか?。偉大なストーリーでメル・ギブソンが続編を出しました。キリスト誕生2を見たことあります?

息子がヨゼフ役をやるといので興奮しました。ヨゼフは重要な役の一つだと思っていましたから。会場を「シエイムス・ロビンソン(息子こそヨゼフだ」と書いたTシャツを着た友人でいっぱいになりました。(笑)

息子には台詞はなかったですが(笑、

賢者が黄金とフランキンセンス乳香とミルラ(没薬)を与える場面です。

(※フランキンセンスとミルラは、大変貴重で高価な自然香料です。)

おそろく、順番どおりにやらなかったんだと思います。後で息子に「あれで良かったの?」と訊いたら「何か間違っていた?」って言うんです。だからたぶん順番を入れ替えたらだと思えます。

その劇で、頭にタオルをのせた4歳の男の子たちは贈り物の箱をおいて、最初の少年が「私は黄金を贈ります」と言い、2番目の子は「ミルラ(没薬)を贈ります」と言い、3番目の子は「フランクがこれを贈ります」って言ったんです。

(爆笑) 本来、フランキンセンスとミルラを語呂合わせで、「フランクが贈った」と言ったんです。

子ども達は一か八かやってみるんです。何も知らなくて子どもはただやってみます。間違えることを怖がらない。間違いを犯すことと創造的であることは同じではありませんが、間違えることを恐れていては、決して独創的なものはいつかない。間違えることを許されずに育った子どもは、本来の才能を失ってしまうでしょう。

(つづく)